

2学期制対応カリキュラムについて — 在学生向け説明資料 —

情報科学類カリキュラム委員会
2013年4月

1

目次

1. 2学期制概要
 2. 履修方法
 3. 授業科目
 4. 単位の読み替え
 5. GPA制度と成績評価
 6. まとめ
- 付録. 教職科目

2

1. 2学期制概要

3

2学期制

- 平成25年度から筑波大学全学で2学期制に移行。
- 1学期 = 15週 + 試験週 (その他に、期末試験予備日が2日間)
 - 春学期の授業: 4月12日～8月7日 (予備日8月8、9日)
 - 秋学期の授業: 10月1日～2月7日 (予備日2月10、12日)
 - (日付は平成25年度の場合)

4

要点

- 既入学者の卒業要件・進級要件は変更なし
 - 各自が入学した年度の「履修要覧」に従う
http://www.coins.tsukuba.ac.jp/internal/03_courses.shtml
(過去の履修要覧へのリンクあり)
 - ただし、編入学生は、その学年の1年次が入学した年度の「履修要覧」
 - 成績評語「A+」の導入により、順位付けは影響を受けることがある。(→ 学務委員会から別途説明あり)
- 授業は原則として学年進行で実施
 - 平成25年度
 - 1年次: 新カリキュラムの科目
 - 2年次: ほぼ従来カリキュラムの科目
 - 3-4年次: 実験は新しいシステム。通常授業科目の時間割は2学期制対応。
 - 平成26年度
 - ほぼすべて: 新カリキュラムの科目
 - 標準履修年次で単位を落としたケース(再履修)では、「単位の読み替え」措置により、できるだけ、学生の不利にならない措置を取る。

5

学期の基本構成

- 春・秋学期を、5週 * 3モジュールに分割
 - 春A, 春B, 春C, 秋A, 秋B, 秋C
- 主な授業パターン

	春A/秋A 5週	春B/秋B 5週	試験 1週	春C/秋C 5週	期末試験予備日 2日
AB授業	← 10週 授業 + 試験 →				
C授業				← 5週 授業 →	
ABC授業	← 15週 授業 + 試験 →				

- 例外
 - 外国語センターの外国語は、年間23週(春8週、秋15週)
 - 他学類開設科目は上記以外のパターンもあり得る
 - 集中講義

6

授業時間帯、時間割

- 時間帯
 - 1時限(1コマ)75分、1日6時限
 - 時間帯は変更なし
- 時間割
 - 春AB、秋AB(10週+試験)に従来の10週単位の授業が多く組み込まれる予定。
 - 春C、秋C(5週+試験)は比較的ゆったりした時間割となる予定。(集中講義や、演習・自習科目、まとまった事に取り組むなど)
 - 実験など新たに春ABC、秋ABC(15週)を使う授業ができる。

7

Cモジュールと期末試験

- 春C、秋Cには専用の期末試験週がない。どうするか？
 - Case 1. レポート等で採点し、期末試験をやらない。
 - Case 2. 期末試験予備日(2日間)を使う。
 - Case 3. 授業時間枠を多く確保して、期末試験を授業時間内に実施
例: 自然言語処理: 3コマ*5週を確保して、授業10コマ+試験1コマを実施。
 - **Case 2 の授業の履修は注意を要する**
 - このバターの授業を同時期に2科目以上とると、期末試験時間帯が重なる可能性あり。(TWINSIは、期末試験予備日の使用についての重複チェックをしない[※]とされる。)
 - 自分でシラバス等を見て確認すること。
 - 例: 総合科目や他学類科目
 - 情報科学類の方針
 - 原則として、Case 1 or Case 3 とする。
 - **Case 3 の授業の正確な授業日程は、ウェブと掲示で周知。**
- ※春ABC、秋ABCの15週授業では、上記の問題は発生しない。
ABの試験週にも授業をやり、Cの最終週に期末試験をやる。

8

2. 履修方法

9

進級要件、卒業要件等

- 在学生向けルールは基本的に変更はない。
 - 入学した年度の「履修要覧」を見ること。
- ルールの例
 - 3年次進級要件、4年次進級要件、卒業要件
 - 在学年限(6年)、休学、年間15単位未満除籍
 - 早期卒業の要件、年間履修登録数の45単位上限の緩和条件
- 成績「A+」の導入に伴う、表現上の変更等はある。
 - 従来「Aが60%以上なら。。。」
 - 新「A+とAが合計で60%以上なら。。。」

10

3. 授業科目

11

共通科目

- 総合科目、体育、外国語、憲法、哲学、芸術など。
 - 基本事項は変更なし。
 - 科目の種類、履修方法、年間の単位数、等。
 - 体育と外国語は単位数と駒数の対応が変わる。
 - 体育: 年間1単位、30週→20週(春AB+秋AB)
 - 外国語: 年間1.5単位、30週→23週(春ABのうち8週+秋ABC)
 - 在学生も、この新しい対応で履修する。
 - 総合科目は、時間構成が変わる。
 - 総合科目: AB科目は1コマ10週、C科目は2コマ10週(いずれにしても、1科目1単位が基本)。
 - そのほか、科目ごとに若干の変更あり。
- 1年次に単位を落とした人向けの再履修科目も、これまで同様に開設される

12

情報科学類開設の1-2年次科目

- 平成25年度入学向けにいくつかの科目を再編。
 - 2年次以上の学生は、単位を取っていない1年次科目を、履修できる。
 - 再編された科目についても、再編前科目で単位を未修得ならば、新科目を(未修得の範囲で)履修できる。
- 〇〇概論(主専攻概論)Ⅰ,Ⅱ → 情報科学概論Ⅰ,Ⅱ
 - 平成25年度:「主専攻概論Ⅰ」が廃止、「情報科学概論Ⅰ」(1年次、2単位)へ。
 - ・従来の「主専攻概論Ⅰ」を1単位でも落とした人は、「情報科学概論Ⅰ」を履修すること。単位数が合わない分の調整は、「単位の読み替え」を参照。
 - ・従来の「主専攻概論Ⅰ」を3科目とも履修済みの人は、「情報科学概論Ⅰ」を履修できない。
 - ・2年生向けの「主専攻概論Ⅱ」は、従来通り開講。
 - 平成26年度:「主専攻概論Ⅱ」が廃止され、「情報科学概論Ⅱ」へ。
- 数学関係
 - 「情報数学」を廃止、「コンピュータ数学」を新設
 - 在学生も、「コンピュータ数学」を履修できる(専門基礎科目の卒業単位にできる。)(「情報数学」と「コンピュータ数学」を両方履修して卒業単位にしてもよい。
 - 「解析学Ⅲ」は、1年次対象から2年次対象に変更するので平成25年度は休み。

情報科学類開設の1-2年次科目

- プログラミング基礎
 - 全体的に強化する。
 - JavaとCの両方の基礎を必修で習得する。Java first
 - 在学生の再履修は、条件がやや複雑(「単位の読み替え」参照)
 - 下記科目は基本的に従来科目の再編なので、旧科目を履修済の場合は、新科目を履修することはできない。(未履修ならばOK)
- 平成25年度から
 - 「プログラミング入門Ⅰ,Ⅱ」 → 「プログラミング入門A, B」
 - ・C言語のかわりにJava言語を用いたプログラミング基礎
 - ・単位数の「切れ目」が変わる。2単位+2単位 → 1単位+3単位
 - 平成25年度の2年次科目は従来通り。
- 平成26年度から
 - 「データ構造とアルゴリズム、同実験」
 - ・内容を拡充
 - ・春ABC10週、合計3単位 → 春ABC15週、合計4.5単位
 - 「機械語序論」 → 「システムプログラミング序論」
 - ・C言語と機械語に基づくシステムプログラミングの基礎
 - ・選択2単位 → 必修3単位
 - 「ソフトウェア構成論」 → 「オブジェクト指向プログラミング実習」
 - ・実習中心に変更、1単位へ。

情報科学類開設の1-2年次科目

- ハードウェア系基礎
 - 科目の構成は同じ。
 - 平成25年度から、「論理回路実験」等の内容を刷新
 - ・機材、進め方を変更
 - ・2クラスに分けていたものを1クラス化
- 他の授業
 - 学群共通科目(情報社会と法制度、知的財産概論)を2科目とも時間割に組み込み。
 - 平成26年度から、「技術英語Ⅰ、技術英語Ⅱ」を「技術英語」に再編(平成25年度入学から、2年次英語1単位必修化に伴う変更)

情報科学類開設の3-4年次科目

- 3年次実験
 - 従来: 年間で3テーマ選択(各テーマ10週)
 - 今後: 年間で2テーマ選択(各テーマ15週)
 - 昨年度、部分的に履修した学生は「単位の読み替え」を参照。
- 通常の授業科目
 - 全体構成は、従来とほぼ同様。
 - 体育(必修)も同様。
 - 定期的見直しの一環としての科目の新設、変更、廃止あり。
 - 授業時間帯は原則として1-2限、3-4限、5-6限。(2-3限、4-5限の科目は原則として作らない。)
- 卒業研究、専門語学
 - 合計単位数に変更はないが、科目名は変更。
 - ・「卒業研究Ⅰ,Ⅱ,Ⅲ」 → 「卒業研究A, B」
 - ・「専門語学Ⅰ,Ⅱ,Ⅲ」 → 「専門語学A, B」
 - 卒業研究のスケジュールに若干変更あり。(→学務委員会)
 - 専門語学の内容を強化。(→学務委員会)

在学生は、新科目を履修できるか？(1)

- 旧科目が新科目に再編されたケース
 - 新旧両方を履修するのは禁止。片方だけならOK。
 - ・参考: 新入学生は、平成25年度のみ開講される旧科目を履修してはいけない。
 - 旧科目が複数科目から構成されていて、その一部を落とした場合は、不足分の範囲内で新科目を履修できる。(単位の読み替え表を参照)

従来の科目	新科目	移行時期
〇〇(主専攻)概論Ⅰ	情報科学概論Ⅰ	平成25年度から
〇〇(主専攻)概論Ⅱ	情報科学概論Ⅱ	平成26年度から
データ構造とアルゴリズム	データ構造とアルゴリズム	平成26年度から
データ構造とアルゴリズム実験	データ構造とアルゴリズム実験	平成26年度から
機械語序論	システムプログラミング序論	平成26年度から
ソフトウェア構成論	オブジェクト指向プログラミング実習	平成26年度から
〇〇(主専攻)実験Ⅰ,Ⅱ,Ⅲ	〇〇(主専攻)実験A, B	平成25年度から
専門語学Ⅰ,Ⅱ,Ⅲ	専門語学A, B	平成25年度から
卒業研究Ⅰ,Ⅱ,Ⅲ	卒業研究A, B	平成25年度から

在学生は、新科目を履修できるか？(2)

- 新設の科目
 - 基本的にOK
 - 過去の科目を再編した科目については、「開設授業科目一覧」の備考欄に「両方の履修はダメ」と記載。
- 「コンピュータ数学」
 - 「情報数学」の廃止に伴う新設だが、内容的に別なので、両方履修して「専門基礎・選択科目」の分類にいられてよい。
- 3,4年次向け専門科目
 - 受講年度に開講されているものを履修すればよい。
 - ただし、「開設授業科目一覧」の「備考」欄に注意
 - 例: システム数理解Ⅰ: 平成24年度までの「システム数理」の単位を修得した学生は、履修できない。

4. 単位の読み替え

19

単位の読み替えとは？

- 単位の読み替えとは
- 例)
 - 卒業・進級等のために科目Aの単位が必要。
 - 科目Aは開講されず、科目Bが開講された。
- 科目Bを履修することによって、科目Aを履修したことにする措置を「読み替え」という。
 - 卒業・進級等の条件をチェックする際の便宜的な方法であり、成績証明書では、履修した科目の成績がそのまま印刷される。

20

ケース1

- 3年次実験(主専攻実験)
 - 卒業要件上は「Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ」各2単位が必修
 - 平成25年度から「A、B」各3単位を開講
- 新3年生(および過去に実験の単位を未修得の学生)は、新しい「実験A,B」を履修すれば、「実験Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ」を履修したと見なす。
- 同様のケース:卒業研究、専門語学(過去に部分的に単位を履修したケースはややこしいので別ケース)

21

ケース2

- 「主専攻概論Ⅰ」(各1単位、3科目)で既習得単位が2単位以下。
 - 新:「情報科学概論Ⅰ」2単位

注意深く履修する必要あり。

- 旧「主専攻概論Ⅰ」を0単位履修済 (3単位不足)
 - 新「情報科学概論Ⅰ」を履修すること
 - 不足する1単位は、任意の専門科目(GA、GB1、GB2、GB3、GB4)で充当科目が2単位以上の場合、余った分は、その科目自身の区分で使える。
 - 旧「主専攻概論Ⅰ」を1単位履修済 (2単位不足)
 - 新「情報科学概論Ⅰ」を履修すること
 - 旧「主専攻概論Ⅰ」を2単位履修済 (1単位不足)
 - 新「情報科学概論Ⅰ」を履修すること
 - 余った1単位は、専門科目の単位(所属する主専攻の区分)として使える。
 - 旧「主専攻概論Ⅰ」を3単位履修済 (0単位不足)
 - 新「情報科学概論Ⅰ」を履修してはいけない(卒業単位にならない)
- ※要するに、単位の無駄は出ない。

22

ケース3

- 「プログラミング入門Ⅰ、Ⅱ」(各2単位)で未履修の単位がある場合。
 - 新:「A」1単位、「B」3単位
- 注意深く履修する必要あり。**
- 「Ⅰ、Ⅱ」とも未履修→「A」と「B」を履修すること。
 - 「Ⅰ」のみ履修済→「B」を履修すること。1単位余り。
 - 「Ⅱ」のみ履修済→「A」と「B」を履修すること。2単位余り。
- ※これらの措置により余った単位は、専門科目(GB1の区分)の単位として卒業要件に使える。
- 「Ⅰ、Ⅱ」両方とも履修済→新科目を履修してはいけない。

23

ケース4

- 「主専攻実験Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ」(各2単位)のうち、1つ(2単位)または2つ(4単位)を履修済み。

注意深く履修する必要あり。

- 0単位履修済→新しい実験2テーマ履修
- 2単位履修済→新しい実験2テーマ履修、2単位余り
- 4単位履修済→新しい実験1テーマ履修、1単位余り
 - 既に履修したテーマと同じテーマは取れない。
 - 落とした学期と、再履修の学期は対応しなくてよい。(1学期の実験を落としたからといって春学期の実験を取る必要はない。)
 - 余った単位は、専門科目(所属する主専攻の区分)の単位として卒業要件に使える。
- 6単位履修済→新しい実験を履修してはいけない。

24

5. GPA制度と成績評価

25

成績評価の変更

- 平成25年度からの変更
 - 成績の評語に「A+」が追加される。
 - A+ 90点～、A 80点～、B 70点～、C 60点～、D～59点
 - 成績分布の目標

「情報科学類の全体(合計)で、「A+」と「A」の合計比率が、おおむね4割以下となるようにする。」

 - 個別の科目ごとに4割以下にするわけではない。
 - 情報科学類では従来から、「A、B、Cの比率が3:4:3となる」ように授業設計してきたので、平成25年度から成績評価が特に厳しくなる、というわけではない。(明文化、ということ。)
 - 情報科学類以外の学類でも、それぞれに成績分布の目標を定め、「A+」や「A」が極端に多くならないよう歯止めをかける。

26

GPA (grade point average)制度

- 平成25年度**入学者**からの変更
 - 学生ごとの総合成績を点数化して通知
 - all A+の学生は 4.0、all A なら3.0など。
 - 一度落とした科目を再度履修して合格しても、前の成績(D)はGPA計算対象にはいる。
 - 在学生には、当面関係ない。(大学院に進学する頃には導入されている可能性あり。)
 - 平成24年度以前入学者と平成25年度入学者をまとめて順位をつけるケースの扱いは、学務委員会が検討して学生向けにアナウンスする予定。

27

6. まとめ

28

まとめ

在学生にとっての2学期制とは？

- 授業の開設時期や時間割は変更。
- 卒業要件・進級要件は入学時のまま変わらない。
- カリキュラムは学年進行が基本、ただし、主専攻実験など一部の科目は平成25年度から変更。
- 再履修（標準履修年次より後に履修）における単位の読み替えには十分な注意が必要。

情報源

- 情報科学類のカリキュラム
<http://www.coins.tsukuba.ac.jp/> → 在学生・教員向け、授業のページ
- 情報科学類の2学期制対応Q&A
<http://www.coins.tsukuba.ac.jp/curri/>
- 履修要覧、開設授業科目一覧
大学のウェブサイトに電子版あり(過去の履修要覧を含む)
平成25年度版は4月中旬ごろに掲載される予定

問い合わせ先:

カリキュラム委員会 curriculum-qa@coins.tsukuba.ac.jp
単位の読み替え、卒業条件など 支援室 学務担当職員

29

付録. 教職科目の変更

30

教職科目の変更

全学での改善:

- 「教職に関する科目」のいくつかが集中講義になり取りやすくなった。

情報科学類での改善:

- 「教科に関する科目」では、必須指定(◎指定)科目が、学類の必修科目でない場合に、複数の科目を指定するようにした。
 - 数学科免許、コンピュータで、「プログラム言語論」を新たに◎指定。
 - 情報科免許、情報通信ネットワークで、「システムプログラム」を新たに◎指定。

- この変更は、平成24年度以前の入学者にも適用される。

※ 「平成25年度の教職シラバス」の誤植

- 平成25年度入学者用に特化してしまったので、平成26年度以降に消滅する科目(たとえば「機械語序論」)が「教科に関する科目」のリストから消えているが、これは大学本部の間違い。(「教職シラバス」に添付した紙の資料を参照)

※ 注意。

情報科免許に必要な「情報と職業」科目： 3年次秋AB月曜4限の指定→平成25年度も必修の「体育」に重なるので、4年次等に履修するか、3年次体育を集中講義等で履修する必要あり。(支援室職員に相談すること)

31